

第二回国際アドバイザリーボード会合概要報告
(公表版)

日 時 : 2025 年 10 月 5 日 (日) 15:00~17:00

場 所 : ザ・プリンス京都宝ヶ池

参加者 : 全米科学アカデミー マクナット会長
英国王立協会 ウォルポート副会長、ウィギンズ国際部長
ドイツ科学アカデミー・レオポルディーナ ロッケンバッハ会長、
ナルマン国際部長
フランス科学アカデミー フランドラン元会長

日本学術会議 光石会長、日比谷副会長、三枝副会長、磯副会長、
吉田第一部長、関谷企画 WG 副主査

概 要 : 独立性の確保、科学的助言の迅速化、社会との信頼関係の強化を中心議題として、1. 提言から社会実装・フォローアップ、2. 政策形成プロセスへの参画、3. 市民・社会との対話、4. 独立性・資金源・COI (Conflict of Interest: 利益相反) 管理の 4 つの観点から活発な意見交換を実施。

提言から社会実装・フォローアップについては、各アカデミーが具体的事例を挙げつつ、短期間での評価は困難であり、社会的影響は、定性的かつ間接的なものが多いことが確認された。また、提言については、迅速化を図るとともに質を保證すべきとの認識で一致。

政策形成プロセスへの参画については、各アカデミーからそれぞれの仕組みが紹介され、政府からの依頼型とアカデミー自主提案型の両輪をいかに制度化するかが主要な論点として認識。

市民・社会との対話については、科学教育への早期介入と科学的助言に対する社会的信頼の構築が重要課題として認識。

独立性・資金源・COI 管理については、アカデミーの独立性は資金源よりも政府との信頼関係に依存すること、科学的助言は「単一の正解」を出すのではなく、社会に選択肢と科学的根拠を提示することが使命であること、政策形成・市民対話・メディア発信をつなぐ新たな枠組みが求められることを確認。

日本学術会議は、今回得られた示唆を参考に、提言発出後のフォローアップ体制の強化、国会・政府・学協会・市民を結ぶ多層的な科学対話チャネルの制度化、独立性と透明性の担保を進め、若手・地域・女性科学者の参加拡大も通じ、社会からの信頼を高めていく旨、表明。



会合の様子



参加者